

品質の高いお米を生産するには、**充実した太い茎を確保することが重要です。**
そのため、次の作業をしっかりと行いましょう。

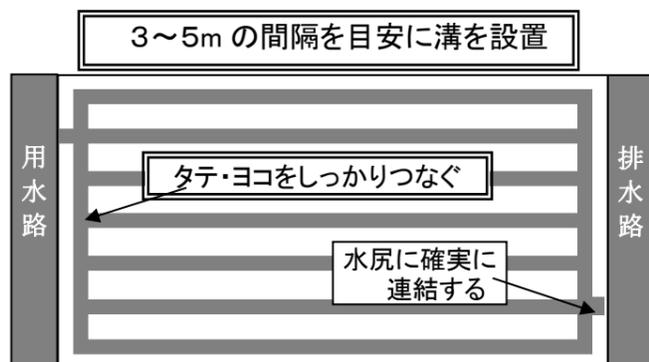
- ①中干しを効果的に行うため、「**溝掘り**」を確実に実施しましょう
- ②田植の1か月後頃を目安に「**中干し**」を開始し、無効となる分けつを抑えましょう

1. 溝掘り

中干しや、その後の間断かん水を効果的に行うため、6月上旬までに必ず溝掘りを行いましょう。

<溝掘りのポイント>

- ・形が崩れないよう軽く田干しを行い、泥を固めた後、3～5mの間隔を目安に溝を掘る。
- ・溝と水尻は確実に連結する。
- ・水の切れないほ場では設置本数を増やす。



2. 中干し

6月に入ると急激に分けつが増加します。田植の1か月後頃を目安に**遅れず「中干し」を開始しましょう。**
また、出穂後20日間の湛水管理に備え、この時期に確実に田面を固めるようにしましょう。

① 中干し開始時期の目安

田植日	中干し開始時期
5月10日	6月10日頃
5月15日	6月14日頃
5月20日	6月18日頃

◎中干しの効果

- ・無効分けつの抑制
- ・土中への酸素供給
- ・地耐力の向上

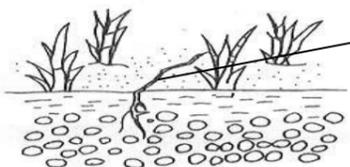


② 中干し程度

- ※過度に干すと、生育不良となる場合があります。田面の亀裂を確認しましょう
- ※排水の悪いほ場では、事前に軽い田干しを行いましょう
- ※復元田は、土がしまりやすいため、一度に干しあげず徐々に干すようにしましょう

・普通乾田

→ 干す期間は5日間程度が目安
干し過ぎに注意！！



田面に小さな亀裂ができるまで



中干しの終了は、ほ場中央部でくるぶしが軽く沈む程度を目安とする。

3. 中干し後の管理

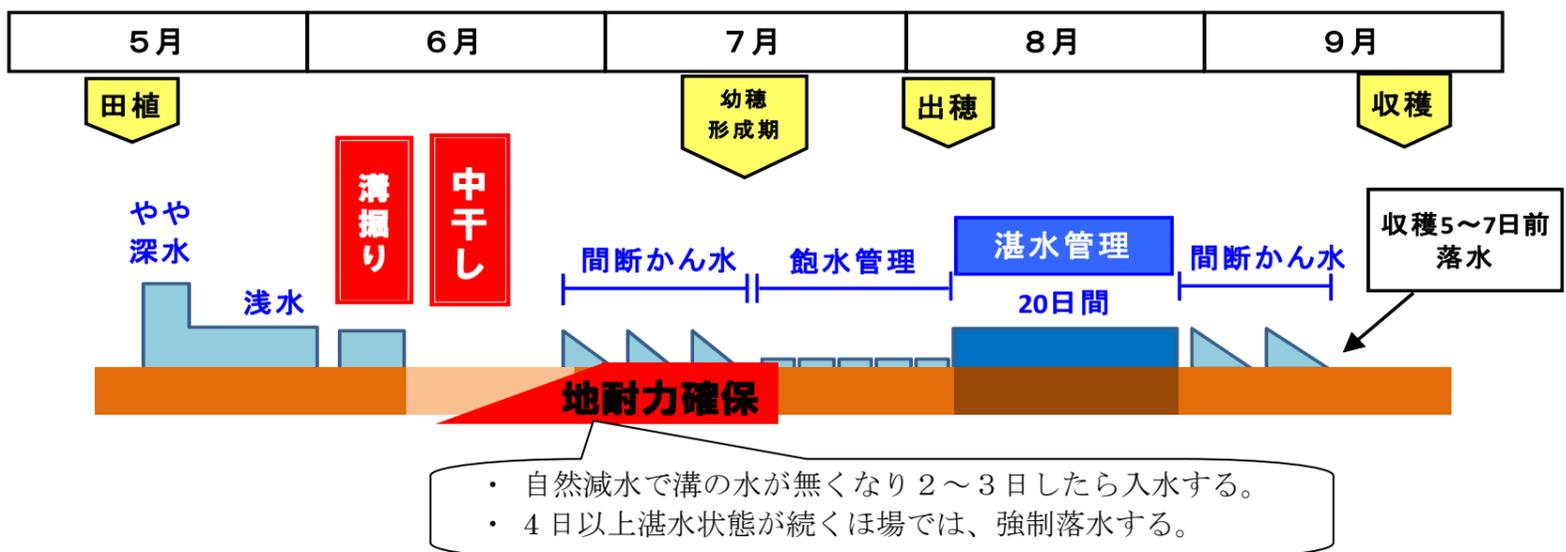
① 間断かん水の励行

中干し後は、幼穂形成期頃まで湛水と落水を繰り返す間断かん水を実施し、足跡の深さ 3 cm程度を目標に地固めしましょう。

② 中間追肥の施用

- ・ H29 年度に実施した富山市農協管内の土壌分析（118 ヶ所）結果では、全体的にケイ酸・カリ成分が不足していることがわかりました。
- ・ 肥効調節型肥料の場合は、カリ成分が不足しがちです。6月中旬～下旬にエスアイ加里特号(15kg/10a)または シンキョーライトP (20kg/10a)を施用しましょう。

<水管理のイメージ>
(コシヒカリ)



4. 後期除草剤の散布

～雑草が残った場合、使用方法を確認し、遅れずに散布しましょう～

雑草の状況	除草剤名	散布量	散布時期	使用回数	水管理	使用上の注意
広葉雑草のみ残った場合	バサグラン粒剤	3～4 kg/10a	田植後15～55日 (収穫60日前まで)	1回	落水	<ul style="list-style-type: none"> ・ 落水して雑草を露出させ、晴天日を選んで散布する ・ 散布後3～4日間は田に水を入れず、また降雨によって薬剤が流出しないよう、水尻は必ず止めておく ・ スポット散布も可
ノビエのみ残った場合	ヒエクリーン1キロ粒剤	1 kg/10a	田植後15日～ノビエ4葉期まで (収穫45日前まで)	1回	湛水	<ul style="list-style-type: none"> ・ 散布の際は、やや深めの湛水状態とする ・ 散布後、3～4日間は湛水状態を保ち、7日間は落水やかけ流さない
	ヒエクリーン豆つぶ250	250g/10a	田植後15日～ノビエ4葉期まで (収穫45日前まで)	1回	湛水	<ul style="list-style-type: none"> ・ 散布の際は、やや深めの湛水状態とする ・ 散布後、3～4日間は湛水状態を保ち、7日間は落水やかけ流さない
ノビエと広葉雑草が残った場合	ワイドショット1キロ粒剤	1 kg/10a	田植後15日～ノビエ4葉期まで (収穫45日前まで)	1回	湛水	<ul style="list-style-type: none"> ・ 散布の際は、湛水のまま田面に均一に散布する ・ 散布後、3～4日間は湛水状態を保ち、7日間は落水やかけ流さない
	クリンチャーパスME液剤	1,000ml/10a (希釈水量70～100L)	田植後15日～ノビエ5葉期まで (収穫50日前まで)	2回以内	落水	<ul style="list-style-type: none"> ・ 10a 当り1,000mlの薬剤を70～100Lの水で希釈し、落水状態で雑草の茎葉に確実に付着するよう丁寧に散布する ・ 散布後3～4日は入水や落水をしない
	ワイドアタックSC	100ml/10a (希釈水量100L)	田植後20日～ノビエ5葉期まで (収穫30日前まで)	2回以内	落水	<ul style="list-style-type: none"> ・ 稲6葉期以前の使用は避ける ・ 10a 当り100mlの薬剤を100Lの水で希釈し、落水状態で雑草の茎葉に確実に付着するよう丁寧に散布する ・ 散布後3～4日は入水や落水をしない

※ 田が湧いている場合は、散布前に一晩程度軽い田干しを行う。